

あらかじめ確認していただきたいこと

① 災害拠点病院であるか？

- 地域災害医療センター
- 基幹災害医療センター

② 病院に振り当てられている番号は？

病院ID	
パスワード	

③ 病院災害対策マニュアルがあるか？

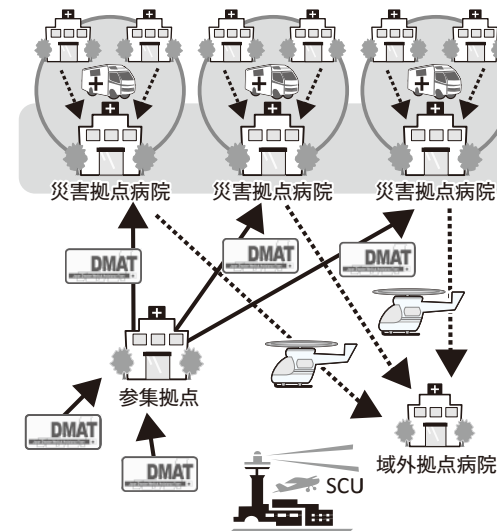
災害拠点病院の役割 (被災地内の場合)

- ① 災害時に近隣病院の拠点となる
- ② EMISで災害関係者ログイン (病院IDとパスワード入力) し情報発信する

● 緊急時入力 は発災直後情報でありおおむね30分以内、**詳細情報**は医療機関情報であり状況に応じて経時的に入力を繰り返す
これにより病院の被災状況、行える医療、必要な医療支援を発信する

- ③ 重症傷病者を受け入れ安定化処置を行う
- ④ 参集するDMATを受け入れる
- ⑤ 後方搬送すれば救命できる患者を選別し搬送の手配をする
- ⑥ 広域医療搬送適応患者を選別しSCUに搬送する手配をする

広域災害時のDMAT活動



DMATは極めて重要なパートナー

被災直後は病院職員のみで対応しなければならないが、被災している職員もいることや医療物資が不足し、被災地内災害拠点病院は人的物的資源が不足している。このため、国や被災都道府県は発災後直ちにDMATの派遣を要請し、被災地外のDMATは被災地内の災害拠点病院に参集する。参集DMATは被災地内の災害拠点病院の病院長の指揮下に入り支援活動を行う。

災害対策本部の設置

- ① 被害の大きい災害が発生したら迷わず設置する
- ② 本部設置の時間と場所を院内にアナウンスする
- ③ 本部要員を招集する
- ④ 本部での決定事項・指示内容や収集した情報を24時間制で記載を開始する
 - 白板に記載すると本部内で情報の共有化を行える
情報は経時的に増えていくので、PCのエクセルファイルなどにも入力していくとよい
- ⑤ 人的・物的被害を把握する
- ⑥ 都道府県庁、市町村の防災担当者に病院災害対策本部の設置を伝達する以後定期連絡を行う

被災地内災害拠点病院チェックリスト

- 災害対策本部の設置（リーダーと指揮命令系統の確立、役割分担）
- 病院の建物、ライフライン（電気・ガス・水道・通信回線）職員、患者・家族の被害状況の確認・把握
- 病院の周辺、近隣の交通網・近隣の病院などの被害状況の確認・把握
- 都道府県庁、市町村との定期的情報交換
- 発災当日の短期的活動方針の決定
- 多数傷病者来院時の初期対応
- マスコミ対応
- DMAT・災害ボランティアの受け入れ
- 3日以内、1週間以内の病院としての長期的活動方針決定
- 病院の原状復帰への計画

内科医の災害医療活動

- ① 災害対策本部での病院幹部の補佐（参謀役）
- ② 急性期：
救急科を中心とする外傷治療のサポート、軽傷処置
- ③ 亜急性期・慢性期：
内科疾患の治療・メンタルケアサポート
- ④ 病棟業務
 - ・ 傷害を負った職員や入院患者の救護
 - ・ 入院患者の医療継続
 - ・ 重症傷病者の受け入れのための空床確保
 - ・ 入院中の軽症患者の帰宅支援

→ 臨機応変に対応する応用力

内科医師は看護師や他診療科医師と協力して被災した入院患者や職員の救護、入院患者の医療継続を行う必要がある。また、災害拠点病院では重症傷病者の受け入れのため、空床を確保する必要がある。そのためには入院中の軽症患者の帰宅支援なども必要となり、看護師等と協力してこれをすすめていかなければならない。